

研究成果の紹介

秋冬ネギ「兵庫N-1号」の収穫時期別品質特性

本県育成のネギ品種「兵庫N-1号」について、10月下旬から11月中旬まで収穫して、品質など調査した結果、全長・全重と全糖含量から11月上旬が収穫適期であった。

内容

本県で育成されたネギ「兵庫N-1号」は2023年から県内全域で試験栽培が始まっているが、収穫時期別の品質は明らかにされていなかった。そこで、北部農技において10月下旬～11月中旬に収穫した「兵庫N-1号」の品質特性を調査した。

慣行の作型（5/16^は播種、7/5定植）で栽培した「兵庫N-1号」を10/30、11/6、11/13の3回に分けて収穫して、外観品質および糖組成を調べた。

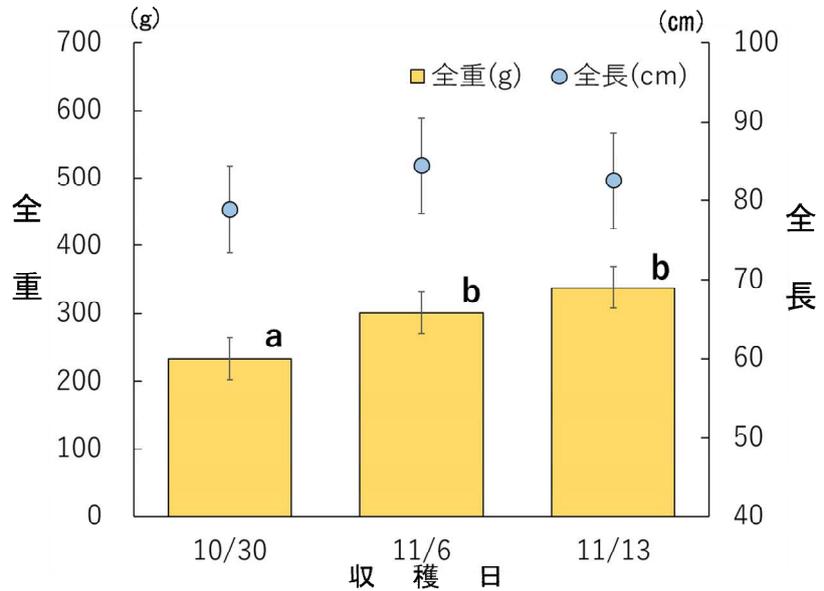


図1 収穫日の違いが全重・全長に及ぼす影響
Tukey-Kramerの多重検定により異符号間では有意差あり(p<0.05)

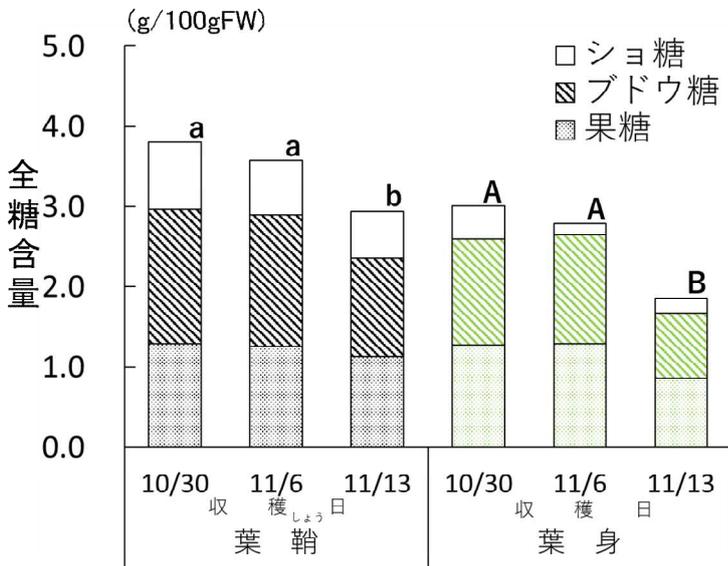


図2 収穫日の違いが全糖含量に及ぼす影響
Tukey-Kramerの多重検定により異符号間では有意差あり(p<0.05)

その結果、全重は収穫を遅らせるにつれて増加する傾向にあり、11/6では約300gとなった。全長は収穫日による差は見られず、10/30でも80cm程度の長さであった(図1)。

全糖含量は葉鞘および葉身とも10/30と11/6で差がなく、11/13には減少した(図2)。

以上の結果、全長・全重と全糖含量から判断すると11月上旬が収穫適期であった。

今後の方針

10月収穫を見込み、播種時期・収穫時期別の品質や日持ち性への影響について継続試験中である。「兵庫N-1号」の総合的な出荷体系の確立を目指す。

木下 歩 (北部 農業・加工流通部)